

地域の公共交通リ・デザイン実現会議について

令和5年12月5日

地域の公共交通リ・デザイン実現会議 ～検討状況～

目的

地域の交通の活性化と社会的課題解決を一体的に推進するため、関係省庁の連携の下、デジタルを活用しつつ、**地域の公共交通のリ・デザイン（再構築）を促進する。**

開催状況

| | | |
|--------------|-----|---|
| 令和5年 9月6日（水） | 第1回 | 現状及び検討の視点・課題の整理 |
| 10月25日（水） | 第2回 | 地域の足の問題に関わる施策等（関係省庁よりプレゼン） |
| 11月16日（木） | 第3回 | 連携・協働に関する具体的取組み（前橋市、常陸太田市、山形県、J R西日本よりプレゼン） |

交通事業者の現状

- ・ コロナ禍による利用者の大幅減
- ・ ドライバー等人手不足の深刻化
- ・ 2024年問題への対応

地域公共交通のリ・デザイン

- ・ 様々な分野との連携・協働
 - ・ デジタル・GXの活用
- による
地域公共交通の利便性・生産性・
持続可能性の向上

目指すべき社会

交通分野において、**誰一人取り残されず、行きたいときに、行きたいところへ行くことができる社会**

会議における主な御意見

1. 地域毎に課題は異なり、処方箋も様々。地域における**人の移動実態に係るデータを取得・共有・利活用する仕組み**が必要
2. **地域交通のリ・デザインを主導する司令塔や仕組み**が必要
3. 交通事業者の**人手不足問題**に対し、**スピード感を持って対応**する必要
4. 地域の課題解決の切り口として**幹線鉄道ネットワークの利便性・安定性・速達性向上**も重要
5. 地方自治体が地域交通のリ・デザインを推進するにあたり、**関係省庁において具体的な方向性や指針を示す**ことが重要

今後の予定

連携・協働の取組みの方向性を具体化し、令和6年4月頃を目途にとりまとめ予定

現状

取組の方向性

< A : 交通空白地など >

- 交通事業者による**サービス提供が困難**
- 過疎化・高齢化が著しく、学校の統廃合等により**日常生活の「足」の問題が深刻化**



- **既存の輸送資源の活用**
 - ・ 各種施設の送迎に、施設利用者以外の地域住民等を相乗り
 - ・ 各種施設の送迎車両を、地域公共交通等の他用途に活用
- 高齢者等が**安全で快適に移動できるモビリティの充実**

< B : 地方都市など >

- 中心部は**過当競争**、郊外では**赤字路線**



- **既存の送迎を地域公共交通に集約・統合**
 - ・ 各種施設による独自の送迎をやめ、公共交通に統合
 - ・ 各種施設の送迎業務を、公共交通事業者に委託
- 地域公共交通における**競争から協調への転換**の推進
(複数事業者の共同経営、一定エリアを一括しての運行等)

< C : 大都市など >

- 内外から多くのビジネス客・旅行者が訪問。
特に外部者には使いづらい面



- **デジタルの活用**を一層推し進め、利用者の個々のニーズに沿いつつ**利便性・快適性に優れたサービス提供を質・量とともに拡充**

< D : 地域間 >

- 地域間交通については、大都市間に比べ
地方都市間や大都市・地方都市間において
サービスレベルが不十分なエリアも多い



- 広域的な公共交通ネットワークの有効性を高めるため、その**高機能化・サービス向上を図る**